

各位

全3ページ

登録速報(2025-151)
2025年9月10日
クミアイ化学工業株式会社
企画普及部普及課

登録速報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。
適用拡大登録年月日：2025年9月10日

記

1 農薬の登録番号及び名称
登録番号：第24387号
名称：ロイヤント乳剤（コルテバ・アグリサイエンス日本（株）登録）

2 変更の内容
農薬登録申請書第6項に以下の内容を追加し、変更後のとおりとする。
(1) 作物名「直播水稻」に適用雑草名「オオクサキビ」を追加する。

(変更後) (変更する作物のみ抜粋)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法
			薬量	希釈水量		
直播水稻	一年生広葉雑草 ノビエ ミズガヤツリ ウリカワ セリ オオクサキビ	稲3葉期～ ノビエ5葉期 ただし、収穫4 5日前まで	200 mL/10a	100 L/10a	2回 以内	乾田・落水 状態で雑草 茎葉散布又 は全面散布

フロルピラウキシフェンベンジルを含む農薬の総使用回数
3回以内

3 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第7項（7）を以下のとおり変更し、別紙のとおりとする。

（変更前）

- （7）多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ミズガヤツリは草丈 25cm まで、ウリカワは6葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは3葉期まで、シズイは草丈 30cm まで、ナガエツルノゲイトウは草丈 60cm まで、また、アゼガヤ（一年生雑草）は草丈 30cm までに散布すること。

（変更後）

- （7）多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ミズガヤツリは草丈 25cm まで、ウリカワは6葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは3葉期まで、シズイは草丈 30cm まで、ナガエツルノゲイトウは草丈 60cm までに散布すること。また、一年生雑草のアゼガヤは草丈 30cm まで、オオクサキビは5葉期までに散布すること。

農薬登録申請書第7項

【変更後】

- (1) 使用量にあわせて薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布液は使用当日に調製すること。
- (3) 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように適期に散布すること。
- (4) 散布する際は、薬液が雑草に十分かかるような状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
- (5) 散布は噴霧状に行い、薬液が雑草全体によくかかるようにすること。
- (6) 散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。
- (7) 多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ミズガヤツリは草丈25cmまで、ウリカワは6葉期まで、セリは増殖期まで、オモダカは矢じり葉3葉期まで、エゾノサヤヌカグサは3葉期まで、シズイは草丈30cmまで、ナガエツルノゲイトウは草丈60cmまでに散布すること。また、一年生雑草のアゼガヤは草丈30cmまで、オオクサキビは5葉期までに散布すること。
- (8) ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラには効果が低いので、それら雑草が混在するほ場ではそれらに有効な剤と組み合わせて使用すること。
- (9) 土壌水分が少ないと効果が十分に発揮されないことがある。乾田または落水状態で散布の際は早め(3日以内)に入水すること。
- (10) 薬害のおそれがあるので重複散布をさけること。
- (11) 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
- (12) 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - ①砂質土壌の水田および漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ②軟弱な苗を移植した水田
 - ③極端な浅植の水田および浮き苗の多い水田
 - ④稲の根が露出している水田
- (13) 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (14) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (15) 幼穂形成期以降の散布では葉先の黄化や止葉の下垂が見られる場合があるが、収量に対する影響は認められていない。
- (16) 散布機、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に洗浄し、洗浄液は河川等に流さず、環境に影響をあたえないように適切に処理すること。
- (17) 空瓶等はほ場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (18) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上